

たすけ愛信太だより

-す み よ い 地 域 を め ざ し て-

発行:たすけ愛信太
<世話人>
藪下 純男 (田 原)
井本 正和 (嵯峨谷)

2020年12月 第2号

たすけ愛信太 研修会を開催しました (10月25日 橋本市農業構造改善センター)

通院、買い物等の日常的な移動・外出に困難を感じている人は、高齢者や障がい者を中心に総人口の数%いるといわれています。高齢になっても今まで暮らしてきた地域で安心して暮らし続けるためには、「移動や外出」は欠かせないことです。そのような人たちの外出を支援するためにはどんな方法があるのでしょうか。信太地域の5年後、10年後を見越して、どんな課題があるかを研修しました。(参加者 33名)

- 講 師 柿久保 浩次氏 (関西 STS 連絡会)
- テーマ 「住民主体による移動・外出支援」



◆ 研修で学んだこと

1 買い物困難者の増加

現在、全国で買い物困難者は 700 万人といわれている。買い物の際、坂道や買い物の荷物を考えると、高齢者の体力では休まずに歩ける距離は 100m まで。今後、運転免許証を返納する人が増えることが予想され、そうすると家に居るだけということになる。私たちの 5 年後、10 年後はどうでしょう。信太地域の高齢化率は現在 44.1%。これが 45%を超えるとかなり深刻な状況になる。地域のシステムとして、その時に応援してくれる人たちを作っておくことが大切。

2 互助の精神でつくる移動・外出手段

2006 年に法律ができ、互助活動として、自家用車を使用した許可・登録の手続きが不要の移動支援が可能となった。【国土交通省 通達「道路運送法における許可又は登録を要しない運送の態様について」】

私たちがボランティアとして移動・外出支援をした場合、利用者からの謝礼として認められるものには次のようなものがある。

- (1) 乗せてもらった人 (利用者) が自発的に謝礼の趣旨でお金を差し出した場合。
- (2) 利用者からの謝礼がガソリン代の実費、道路通行料、駐車料金のみの場合。他
(ガソリン代の算出方法の一例 → 走行距離 ÷ 燃費 × 1ℓあたりのガソリン価格)

3 他府県の取り組み例

(1) 富田林市のある地区では、「どんな交通手段・方法で買い物に行っていますか、また 10 年、15 年後はどうですか」というようなアンケートで実態把握をしている。そこでは支援員 (28 人)、専用車 2 台とボランティアのマイカーで移動支援をしており、利用者負担は年会費 3,000 円及びガソリン代実費を利用券で払っている。また次のような移動支援以外の活動もおこなっている。① 困りごと支援。(ゴミ出し、屋内掃除) ② 憩いの場支援。(集う場、買物、インターネット支援) つまり、「生活支援一体型」で活動している。

(2) 岡山県の吉備中央町などでは、社会福祉法人が車両や運転者を提供して買い物や“ふれあいサロン”等への移動支援をしている。各地区 (5カ所) に世話人がおり、各サロンの担い手 (住民ボランティア) は自分ができることを行っている。

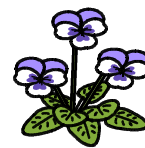


4 将来、住民主体の移動・外出支援をおこなうためには

(1) プロジェクトをつくる。(2) ニーズの調査。(3) 地域の資源を見つける。(4) 地域に合う仕組みを検討する。(5) 保険や資金などを検討する。(6) 要綱や協定書、利用者規約を整備する。等である。→そして本格実施をしていく。

5 協議で出された意見

(1) 本当に困っている人はそのことを言わずに我慢している。(2) 車の保険は必須。
(3) ボランティアが持つべき意識として大切なことは、“送ってあげる”ではなく“送らせてもらう”という気持ちだ。応援するということはそういうこと。認知症の人を送迎する場合、色々な感情をぶつけられることもあり、柔軟な対応が大切。こんな時、この人となら行っても良いという気持ちにさせることが大事。しかし、相性が合わない人も居る。だから一人ではできない。(4) 信太地域で、「こういうことはやめとこ」とか、「これは頑張ってやろう」とかを決めておくことも必要。また市役所の関係課との相談も必要。



◆研修で感じたこと（参加者の感想）

- ① 10年後、15年後を考えた場合、支援が必要になってくることは間違いない。今から助け合いの仕組みを地域としてつくっていく必要性を感じた。
- ② これからの地域を考えた場合、足（移動手段）の確保をどうするのが大きな課題です。私も認知症の関係の取り組みをしていますが、足の確保が大きな問題となっています。多様な形（利用者が利用しやすい）を教えていただき、今後の参考にしたいと思っています。5年後は運転免許証は返納していると思います。
- ③ 買い物は「メモに書いた物を買ってきてあげるのではなく、本人がその場所へ行って買い物をすることが大切」の言葉が心に残りました。5年後は、元気でボランティア活動をしていたいと思います。（希望です）
- ④ 定年後の自分の生活を考えているところです。私の地区は高齢化率の高い地域であることは事実で、困ることが目に見えています。集まる場、移送の手伝いなど、自分の考えるようにしていきたいとは思っていますが、講演のなかにあつたように、全域でという話になると、いろんな課題を持った人がいるため前に進まないのが現実です。まずは近所付き合いの延長のように、何かの手助けができればと思っています。
- ⑤ 移動支援内容が詳しく理解できたが、具体的に誰が取り組むか、熱心なリーダーが地域にどれだけいるか、また、住民の意識をどう高めていくかが課題。



上中区
塩山孝子

助け合いの体制づくりを
『たすけ愛信太』って。最近よく聞くなと思わされていませんか？
でもこれ何？それには「地域の活動、い話、困った話、イベントやこの地でいなる話等、信太地域のこと域であれば何でもOK！皆さんがこの地域で楽しく活動する場ありませぬ。

私たちが日常で起る可能性が
高いたすけ愛信太では、10年後の
ケ取組を想像して見ると、基
え取り組や活動後、見交
ていば私の場合、運転免許証を返納し
スーパースーパーの買い物、医療機関へ
往來、サロンの友達との交流場所へ
の参加が難しくなり、住み慣れた
地域の生活が周りに人達とのコミュ
ニケーションが大切にしていくた
め、自分でできるような体制づく
りが必要で、健康寿命を延ばす
ことが自分自身の健康には必要だ
と、この機会に自分自身の健康寿
命を延ばすことが大切だと思っ
た。

日頃考えていることを投稿して
いただきました。